

[成果情報名] 温州ミカンにおけるミカンサビダニの効果的な年間防除体系

[要約] 温州ミカンにおいて6月上旬にルフェヌロン乳剤、7月中下旬にピリダベン水和剤、9月上旬にピフェナゼートフロアブルまたはエトキサゾールフロアブルを散布すると、年間を通してミカンサビダニの被害が低く抑えられる。

[キーワード] ミカンサビダニ、温州ミカン、防除体系

[担当] 長崎県果樹試験場・病害虫科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール fbyochu@afes.pref.nagasaki.jp

[区分] 九州沖縄農業・果樹、病害虫

[分類] 普及

[背景・ねらい]

近年、温州ミカンにおいてミカンサビダニの被害が増加している。この原因として、薬剤抵抗性ミカンサビダニの発生・蔓延や有効薬剤の散布回数低減による防除圧の低下が考えられる。そこで、有効薬剤の残効期間と効果的な散布時期を明らかにし、年間の防除体系を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1．ルフェヌロン乳剤3000倍の6月上中旬散布はミカンサビダニの被害を散布後1～2ヶ月間抑える(図1、図2)。
- 2．ミカンサビダニによる果実の被害は、防除効果の高い薬剤を7月に散布すると効果的に抑制できる(図3)。
- 3．6月上旬にルフェヌロン乳剤3000倍、7月下旬にピリダベン水和剤3000倍、9月上旬にピフェナゼートフロアブル1000倍またはエトキサゾールフロアブル3000倍を散布すると、年間を通してミカンサビダニの寄生密度が低く抑えられ(データ未掲載)、果実の被害が低下する(表1)。
- 4．ミカンサビダニの発生が平年並みか少ない場合は、6月にマシン油97%乳剤200倍を使用する体系でも十分な効果が得られる。その場合、7月の散布はミカンサビダニが果実で増加する前の7月中旬頃までが望ましい(表1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．ミカンサビダニの多発生地域での防除に活用できる。
- 2．前年に被害が多かった圃場や多発生圃場が近くにある場合はルフェヌロン乳剤を使用する体系がよい。

[具体的データ]

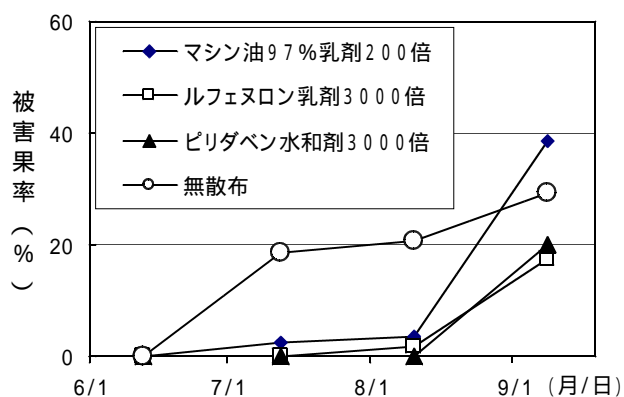


図1 6月散布薬剤のミカンサビダニに対する防除効果(2000年)

注1. 散布: 6月11日、品種: 岩崎早生
注2. マシン油乳剤はミカンハダニを対象に散布

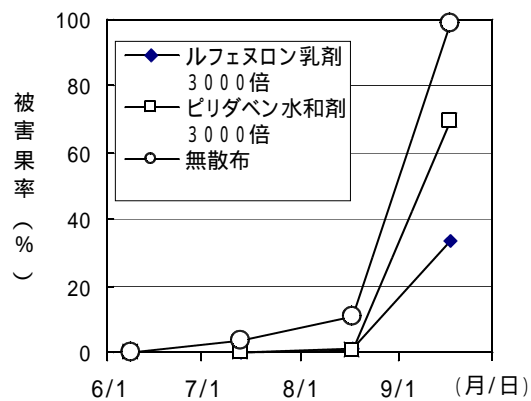


図2 6月散布薬剤のミカンサビダニに対する防除効果(2001年)

注. 散布: 6月8日、品種: 原口

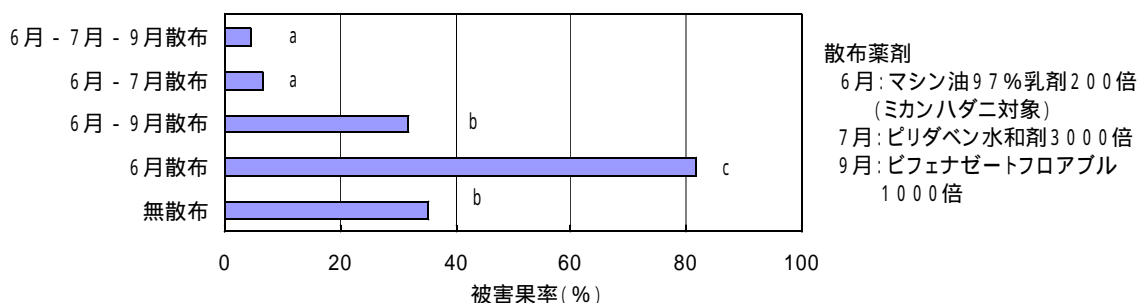


図3 散布時期が異なる体系のミカンサビダニに対する防除効果

調査: 2001年11月8日 図中の同一英小文字間にはtukeyの多重検定(5%)で有意差がない

表1 温州ミカンにおけるミカンサビダニの効率的な防除体系

体系	散布時期(月/日)と薬剤名			被害果率 (%)	ミカンハダニの春葉被害度
	6/10	7/22	9/6		
1	ルフェヌロン乳剤 3,000倍	ピリダベン水和剤 3,000倍	ピフェナゼートフロアブル 1,000倍	0.7	28.3bc
2	ルフェヌロン乳剤 3,000倍	ピリダベン水和剤 3,000倍	エトキサゾールフロアブル 3,000倍	0	32.0c
3	マシン油97%乳剤 200倍	ピリダベン水和剤 3,000倍	ピフェナゼートフロアブル 1,000倍	8.7	14.0ab
4	マシン油97%乳剤 200倍	ピリダベン水和剤 3,000倍	エトキサゾールフロアブル 3,000倍	10.7	6.0a
無散布	無散布	無散布	無散布	63.3	33.7c

注1. 同一列の同一英小文字間にはtukeyの多重検定(5%)で有意差がない

注2. 調査: ミカンサビダニ2002年12月2日、ミカンハダニ2002年10月29日、品種: 青島温州

注3. マシン油97%乳剤はミカンハダニを対象に散布

[その他]

研究課題名: 果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

予算区分: 県単

研究期間: 平成14年度(昭和58年~)

研究担当者: 中村吉秀、早田栄一郎